

熊本地域医療センターだより

院長 清住雄昭

令和元年(2019年) 11月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

2019 11 月号 通算174号

熊本地域医療センター 理 念

かかってよかった。

紹介してよかった。

働いてよかった。

そんな病院をめざします。

contents

新任挨拶	P2
資格取得・研修会報告	P3
お知らせ	P4

「友達の輪～Relayトーク 第1弾」 熊本地域医療センターについて思うこと

新町いえむらクリニック 家村 昭日朗



地域医療連携室長の柳先生とひぐち小児科・小児外科の樋口章浩先生のアイデアでこの「熊本地域医療センターだより」の原稿を会員が次々に繋いでいく様にしたかどうかということになり、大変僥倖ですが私に最初のご指名がありこれまでの「熊本地域医療セン

ターだより」を読み返す機会となりました。多くの先生が、熱い気持ちで熊本地域医療センターを利用しお互い深い関係で支えられていると感じました。

昭和40年代中頃より、会員福祉を目的に全国各地で医師会立共同利用施設が設立されました。熊本市医師会でも先輩たちの努力により昭和46年に熊本市医師会成人病検査センターが、そして昭和56年に熊本市医師会病院が設立され現在の熊本市医師会地域医療センターの土台が形成されています。しかしここ最近の医療情勢の変化により各地で運営が困難となる共同利用施設が増え、閉鎖や医師会以外の運営母体で引き継がれるなど様々な統廃合が進んでいるようです。

熊本には大学病院を始め多くの基幹病院がありますが、医師会病院は会員が利用できる手術場や自院の病棟の代用など特別な病院として機能しています。その点からも設立当初の理念のまま診療運営が行われている共同利用施設は全国的に見ても少なく、これは言い換えれば、医師会病院の役割は大きく、会員に不可欠な病院であることを意味していると思います。

多くの開業医にとって入院が必要な患者さんの紹介先

を決める際、様々な考えが巡ります。病院の専門性はもちろんですが、患者さんの病状や希望あるいは地理的条件などが紹介先を決める要因となります。そしてその中で以前紹介した患者さんの治療経過やそれから築かれる顔が見える関係がとても重要な決め手になっていると感じます。最近ではインターネットを介して自院に居ながら紹介先での患者さんの状況がわかるシステムを導入する病院も増えていますが、熊本地域医療センターでは早くから熊本リージョナルネットが導入され、更に安心できる病院となりました。また、医師会の部会や勉強会、あるいは出勤協力医としての勤務は、医師会病院の様々な診療科の先生や病院スタッフとお話するととても良い機会です。病院の雰囲気や患者さんへの気の配り方などが直接感じられ、これらにより更に顔が見える良い関係につながっていると思います。

私にとって医師会病院はとても大切な病院で、他の基幹病院にないまさにオラが病院という感覚があります。私と同じように熊本地域医療センターを視ている会員は多いのではないのでしょうか？

古くなった医師会病院を建て替えることが決まり、病院建設に関わる病院スタッフ、執行部や委員会の先生が夜遅くまで話し合いをされています。一日でも早く新しい病院が建ちこれまで以上の医師会立共同利用施設としての医師会病院となることを願っています。

ということで次の原稿をひぐち小児科・小児外科の樋口章浩先生にお願いしたいと思います。樋口先生は自院での診療とともに熊本地域医療センターの手術場で自院の患児の手術をされ熊本地域医療センターの素晴らしさを余すことなくご存知の先生です。

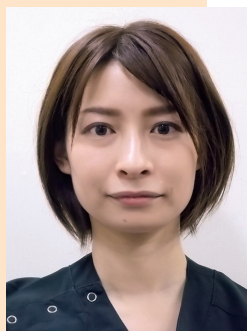
新任挨拶



小児科
濱口 正義

2019年10月から当センター小児科に赴任いたしました、小児科専攻医の濱口正義と申します。初期研修は熊本大学病院と熊本労災病院で行い、昨年度熊本大学小児科に入局しました。昨年度は大学病院と福田病院のNICUで新生児の診療をしていました。今年度の前半は大学病院で主に小児血液・腫瘍グループでの診療をしてきました。小児救急を担う病

院は初めてで、今までとかなり違うため非常に緊張していますが、勤務初日に優しい先生や看護師、検査技師の方々が何かと気にかけてくださり、少し安心しています。まだまだ未熟者ではありますが、日々の診療の中で成長して、少しでも貢献できるように努めてまいります。今後とも宜しくお願いいたします。



皮膚科
清原 佐央里

大変お世話になっております。

2019年7月より、前任の渡邊先生に代わりまして毎週木曜日の皮膚科外来を担当させていただいております、清原佐央里と申します。

生まれは天草で、高校まで熊本で暮らしました。鹿児島大学医学部に進学し、卒業後鹿児島の国立病院機構鹿児島医療センターで初期臨床研修を行った後、一年間神奈川の帝京大学病院附属溝口病院で皮膚科医として勤務致しました。

現在熊本に帰ってきて、熊本大学病院にて勤務させていただいております。

高校生以来の熊本での生活ですが、つい最近近くにサクラマチクマモトもオープンし、故郷が益々盛り上がっていくようで嬉しく思っております。

皮膚科医としてまだまだ未熟で力不足な部分も多いかと思いますが、患者さんによりよい医療を提供できるよう研鑽を積んで参りますので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



研修医
南 真弓

初期研修医1年目の南真弓と申します。熊本大学を卒業後、本年4月より熊本大学病院で半年間研修して参りました。10月より1年間の予定で当院で研修をさせて頂いております。これから内科や救急をはじめ、様々な診療科を回らせて頂ければと考えています。

現在は消化器内科でお世話になっておりますが、先生方には懇切丁寧なご指導

を頂き、コメディカルの皆様にも細やかなお心配りを頂いて、毎日貴重な経験を積ませて頂いており、皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

右も左もわからない新米研修医で、皆様のお手を煩わせてしまうことも多々あるかと思いますが、一日一日、精一杯頑張りたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



社会福祉士
大石 真奈美

令和元年9月1日より勤務させて頂いております社会福祉士の大石真奈美と申します。

今まで、急性期病院や回復期病院での経験を経て、支援が必要な方のソーシャルワークや退院支援に携わらせて頂きました。病気や怪我により起こりうる生活の不安感や制度の活用等、患者さんと共に考え、支援させて頂いて参りました。例えば、入院する事で起こりうる経済的な不安や退院に際しての介護やケア方法についての介護保険の活用、就労に伴う相談、身体障がい者手帳の申請や障害福祉サービスの活用相談を行って参りまし

た。また、様々な機関と連携を図ることで、切れ目のない支援を心がけ、少しでも問題解決のお手伝いが出来ればと考えて参りました。

当院は、小児科や緩和ケア病棟も有する医療機関であり、一般病棟だけでなくその支援に携われる事に感謝すると共に、皆様に貢献できるよう努力してまいります。

まだまだ不慣れな事も多いですが、院内外の皆様と連携を図りながら、よりよい支援ができるように努めて参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

CDEJ（日本糖尿病療養指導士）の認定資格を取得しました

近年日本では、糖尿病が疑われる人・その可能性を否定できない人が約2,200万人いると言われており、年々増加傾向にあり、高齢化が進んでいます。糖尿病の治療目標は、血糖・体重・血圧・血清脂質の良好なコントロール状態を維持し、糖尿病小細血管障害および動脈硬化性疾患の発症・進展を防ぎ、健康な人と変わらない生活の質（QOL）の維持・寿命の確保にあるとされています。

CDEJの資格は、糖尿病に関する専門知識を持ち、患者さんのセルフケアを支援する目的で作られました。一定の経験を有し試験に合格した看護師・管理栄養士・薬

剤師・臨床検査技師・理学療法士に与えられ、日本糖尿病療養指導士認定機構により認定されます。

糖尿病に関する療養指導において、薬の適正使用だけでなく、患者さんの背景を理解し、食事・運動療法などを含めた全般的な指導ができる能力が薬剤師にも求められています。

まだまだ未熟者ですが、少しでも糖尿病治療に貢献できるように日々努力して参りたいと思います。



薬剤部
森川 沙樹



地域医療連携室
伊藤 祥子

両立支援コーディネーター研修会に参加しました

2019年9月12日、熊本市国際交流会館にて両立支援コーディネーターの研修会が開催されました。両立支援コーディネーターとは、医療や心理学、労働関係法令や労務管理等両立支援に関する基礎的な知識や考え方等の一定の研修を受講し、患者

さん方の依頼を受けて患者さんに寄り添いながら相談支援を実施し、患者さん、主治医、企業、産業医のコミュニケーションのサポートを行う者とされています。医療

従事者のみならず、社労士・保健師・企業の労務担当者など様々な業種の方が東京や愛知など遠方から参加しており、この資格が重要視されていることがよくわかりました。研修会では、基礎知識はもちろんのこと、グループに分かれ様々なシミュレーションを行いました。シミュレーションの中では医療機関に勤務していない方が考える支援方法などをお伺いでき、充実した時間となりました。今回、定員が50名と限られた中、参加させていただき誠にありがとうございます。患者さんのお力になれるように得た知識を活用して参りたいと思います。



医師賠償責任保険の補償拡充について

総務課長兼地域医療連携室課長 牛島 敬司

当院が加入しております医師賠償責任保険に本年11月から医師・看護師・コメディカルの医療従事者個人の賠償責任を補償する特約を追加いたしました。

これにより一般的な医療訴訟として、患者さんから病院に対して法律上の賠償責任を追及された場合だけでなく、稀なケースとして患者さんが医療従事者個人に対して強い不満・不信を覚え、個

人を訴えた場合にも補償することが可能となりました。

会員の先生におかれましては、休日夜間急患センターの出動協力の際や、当院で手術を執刀される際などにも、より安心してご勤務いただけるものと存じます。

今後ともご協力ならびにご利用を賜りますようお願い申し上げます。



がん支援相談員
里山 弘子

「この人の側にいたい」と願って自分を奮い立たせながら仕事を続けていると思います。

今回私は、緩和ケアに永年従事してこられたためぐみ在宅クリニックの院長である小澤竹俊先生が、人生の最終段階に対応できる人材育成プロジェクトとして2013年から開催している本研修に参加しました。定員の倍近くに膨れ上がった参加者は、医療職・介護職など様々で、2日間の研修を通じて学びたい思いが会場にあふれていてすごい熱気でした。

講義では「誰かの苦しみを100%理解することは出来ない。ただ苦しんでいる人は、苦しみを分かろうとして

「エンドオブライフケア援助者養成基礎講座」を受講して

(2019.8.24～25 熊本市医師会館にて)

人生の最終段階にある人やその家族と関わることは辛い、苦手だと感じる人は少なくないでしょう。私自身、そしておそらく多くの医療者が、苦しんでいる人と接する時、自分の無力さ「何もできない自分」に直面してくじけそうになり、それでも

くれる人が側にいると嬉しい」ということ、苦しみを分かろうとする人になるには、相手の気持ちをしっかりと聴ける私でなければならないと言うことを、いろいろな事例を通して学びました。また、相手の気持ちをしっかりと聴くためのトレーニングとしてロールプレイを行いました。すると、沈黙に耐えられず、ついつい自分から話し過ぎ、相手の思いをしっかりと聴くことが出来ていない自分の癖に気づくことが出来ました。

この研修を受講して驚いたのは、このメソッドが医療の専門職でなくても誰でも理解できる平易な言葉で語られていることです。そして、このメソッドはあらゆる苦しみに直面している人に共通して有効で、医療者でなくても、大人でも子供でも苦しむ人の支えになることが出来るのだそうです。興味のある方は、定期的に全国で研修会が開催されていますので、標記のタイトルで検索してみてください。たくさんの気づきがあることでしょう。私も、研修を受講して、エンドオブライフケア援助者としてのスタートラインに立った思いです。ここから現場で学び続けていきたいと思っています。

次回の熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時／11月25日(月) 19:00～

場所／熊本地域医療センター
2階 多目的ルーム

「CT と MRI の使い分け」

CC 0：その他

放射線科 矢村正行先生



熊本地域医療センター

■医師へ直接紹介される方はこちら ☎096-363-3311(代表)

■何科に紹介するか迷っている場合はこちら (平日9:00～17:00)

※ベテラン看護師が対応いたします! ☎096-372-0600

■画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら(連携室) ☎096-366-1323

令和元年
8月作成

編集後記

Y ⇒ 連携の会で提案された新企画、「友達の輪～RelayTalk(仮)」を始めました。「患者紹介電話相談」と相まって、会員の皆様と当院の連携がますます深まることを期待しています。よろしくお願いします。

S ⇒ 当院ではICT・感染対策リンクナース会により、インフルエンザの流行を追った「後追い」の対策ではなく、「先読み」の予防策を実施しております。感染情報の院内配信、計画的な対策を練られており、猛威をふるうインフルエンザの心強い味方です。

H ⇒ 井上選手のボクシングの試合をテレビで初めて観戦しました。激闘のあまり、テレビの前から一歩も動けず、一瞬にしてファンになってしまいました。